



福商 歴史・
文化シリーズ

報告編

「福岡城天守の復元的整備を 考える懇談会」を開催

～郷土愛を醸成し、市民が誇りを持てるまちを目指して～

当所は3月5日、国史跡・福岡城跡の天守復元について検討する「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」を開催しました。懇談会の設置経緯や目的、第1回の議論内容についてご紹介します。



福岡城天守の復元的整備を考える懇談会

津田 鶴太郎 氏 (福岡商工会議所 副会頭) 石井 幸孝 氏 (福岡城・鴻臚館市民の会 理事長) 谷川 浩道 顧問 (福岡商工会議所 会頭) 山中 伸一 座長 (角川ドワンゴ学園 理事長) 丸山 雍成 氏 (九州大学 名誉教授) 毛屋 嘉明 氏 (藤香会 副会長) 川原 正孝 座長代理 (福岡商工会議所 副会頭) 高木 直人 氏 (九州経済調査協会 顧問)

※その他、ご就任の委員：佐藤正彦 氏 (九州産業大学 名誉教授)、千相哲 氏 (九州産業大学 副学長)

懇談会の開催経緯

当所は、令和5年度から重点事業のひとつに「歴史・文化を活かしたまちづくり」を掲げています。令和5年度は、観光・まちづくりの有識者15名で構成する「歴史・文化を活かしたまちづくり懇談会(以下、歴文懇)」の事務局を当所が務め、必要な取組み等について議論を重ねてきました。昨年9月、歴文懇によって『福岡・博多の歴史・文化を活かしたまちづくり』に関する15の提言(以下、15の提言)が取りまとめられ、その中に「提言8:『福岡城』天守復元の早急な検討を」が盛り込まれました。

今から約400年前、福岡藩(黒田氏)の居城として築城された福岡城ですが、天守に関しては設計図(指図)等が確認されていないため、復元は難しいとされてきました。15の提言では、天守の存在が歴史のシンボルや市民の心の拠り所になると復元を望む声も多いことから、まちの歴史を伝える「公共財」のあり方を市民自身の意志で決めることも重要であると提言されています。

こうした背景から、天守復元の要否について市民の声を聴きながら検討するため、有識者や専門家による「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」を設置し、初開催しました。

「福岡・博多の歴史・
文化を活かしたまちづくり」に
関する15の提言」全文はこちら▶



懇談会での検討テーマ

平成26年、福岡市によって「国史跡福岡城跡整備基本計画」が策定された後、文化庁は国史跡の取り扱いについて「保存から活用へ」との考え方を示したり、「復元的整備」の基準を新たに設けたりしています。

こうした動きを踏まえ、懇談会では、天守の「復元的整備」を含めた様々な課題や方法について数回にわたり議論を行うほか、市民の声を聴いて取り入れられるように進められる予定です。

第1回の議論内容

第1回懇談会では、丸山雍成 氏(九州大学名誉教授)が史料に基づいて福岡城天守が存在した論拠などを説明した後、意見交換を行いました。

懇談会の開催にあたっては、山中伸一 座長(角川ドワンゴ学園理事長、元文部科学事務次官)から「文化の交流点である福岡・博多の将来を切り拓く象徴的な一つの事業になればいい」と挨拶が述べられました。また、川原正孝 座長代理(当所・副会頭)は、「福岡市は天神ビッグバンなど先進的な取組みを次々に行ってきた。文化財整備についても、前例や規制に捉われずに、どうすれば課題を克服できるかを建設的に議論していく」と述べました。



▲挨拶する山中座長



▲天守が存在した論拠を述べる丸山氏



▲意見交換を行う谷川顧問、川原座長代理、石井氏(左から)



お問い合わせ / 総務・人事グループ TEL : 092-441-1110